

【工芸部門】 市長賞 佐藤 雅之様

「種Ⅱ～生命の起源～」 制作意図(コンセプト)

絵画は、色や線を使って平面に表現するのに対して、彫刻は、形や量や空間を立体に表現する。平面の絵画がプラスしていく世界だとしたら、彫刻は、いかにマイナスしていくかというもので、その対極にある。また、何かの具体的な形を表しているものを具象彫刻とするなら、テーマに沿った形や質感を自分の感性で表したものが抽象彫刻と言えるだろう。本作品は后者である。

種は大地に落ちて次の命を育む。太古の昔から命をつなぎ続けている。そんな自然の生命力を内包した種の力強さが表現できたらと考えた。

材質は、三体とも楠。楠は柔らかいが、乾燥させると、ゆがみやひずみが生じる。また、木目が複雑に入り組み、逆目を起こしやすい。そんな材と格闘することも、制作の醍醐味である。

作品は、重なり合うように切り込んだ模様を表面に施すことで、形を引き締め、動きを与えた。また、形のふくらみや、「柿渋」を何度も重ねて彩色することで、作品に量感を表現した。